

科目名 (英)	美容総合技術IV国家試験実技 Comprehensive beauty technology	年次	2	実務経験 有	担当 開講区分	井上秀浩 川戸有子
		授業形態	演習			後期
	時間数	30			曜日・時間	水・1~4限
学科・コース	美容師科	単位	1			
講師紹介	美容師経験を生かし、美容の技術、国家試験課題の技術をわかりやすく指導し、個々の技術力や理解力を把握し、個々に合った指導を行う。学ぶことの苦手意識が克服出来るように努め、主体性が發揮出来る授業展開を目指す。またまつエク基礎技術を学ぶ					
目的 科目概要	業界で活躍するプロから最新の技術と現場力を学ぶ。					
到達目標	常に、お客様、モデルを想定しての接客・応用技術を身に付ける					
評価方法	学則に定める評価とする。100点~90点A(4.0)、89点~80点B(3.0)、79点~70点C(2.0)、69点~60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 答問試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品					
教科書						
教材						
特記事項	講義及び掲示物について、著作権のある資料も使うことがある為 写真撮影及び録音録画を禁止する			事前事後 学習と その内容		

授業計画

回数	授業テーマ	授業内容
1	美容全般の技術を学ぶ①	美容の幅広い技術の応用(国家試験を意識する) 基礎技術の振り返り
2	美容全般の技術を学ぶ②	美容の幅広い技術の応用(国家試験を意識する) 基礎技術の振り返り
3	美容全般の技術を学ぶ③	美容の幅広い技術の応用(国家試験を意識する) 基礎技術の振り返り
4	美容全般の技術を学ぶ④	美容の幅広い技術の応用 現場に応じた一連の作業工程を学ぶ
5	美容全般の技術を学ぶ⑤	美容の幅広い技術の応用 現場に応じた一連の作業工程を学ぶ
6	美容全般の技術を学ぶ⑥	美容の幅広い技術の応用 現場に応じた一連の作業工程を学ぶ
7	プレゼンテーション①	美容の幅広い技術の応用 現場に応じた一連の作業工程を学ぶ
8	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定しロールプレイで実施する
9	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定しロールプレイで実施する
10	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定しロールプレイで実施する
11	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定しロールプレイで実施する
12	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定しロールプレイで実施する
13	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定しロールプレイで実施する
14	美容全般の技術を学ぶ③	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定しロールプレイで実施する
15	美容全般の技術を学ぶ③	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定しロールプレイで実施する

科目名 (英)	衛生管理 Hygiene for beauty	年次	3	実務経験	担当	渡邊 隆	
		授業形態	講義				
学科・コース	美容師実践科	時間数	30	有	開講区分	前期	
		単位	1		曜日・時間	月・1限	
講師紹介	薬剤師として調剤薬局や老人施設などの現場で最新の情報を常に得られる環境にて仕事をしています。また薬系の大学や専門学校で講師を務めています。教科書の内容だけでなく最新の情報を授業に生かしていくことを心がけています。						
目的 科目概要	美容師国家試験の科目で衛生管理学は「公衆衛生・環境衛生」「感染症」「衛生管理技術(消毒法)」の三科目に分かれており各々5問づつ出題されます。国家試験全55問のうちの15問を締めるこの教科において最終の目的は国家試験合格と足切りの回避です。ただし、この科目が美容師になった時、また日々の暮らしの中で役立っていくような知識作りをします。						
到達目標	国家試験での合格ですが、それを通過点として美容師法第1条「美容師は美容師の業務が適正に行われることで公衆衛生の向上に資すること」に忠実に実行できる美容師になるための知識を身につける。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input checked="" type="checkbox"/> 答え合わせ試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品						
教科書	センターからの配本	事前事後 学習と その内容					
教材	都度		各章終了時に小テストを行うので予習より復習				
特記事項							

授業計画

回数	授業テーマ	授業内容
1	公衆衛生の復習 その1	WHOや歴史上の人物の功績、美容師と公衆衛生の関わりについて国家試験レベルまで復習する
2	公衆衛生の復習 その2	母子保健、成人・高齢者保健について国家試験レベルまで復習する
3	公衆衛生の復習 その3	精神保健について国家試験レベルまで復習する。
4	環境衛生の復習 その1	人間における環境要因、空気の環境について国家試験レベルまで復習する。
5	環境衛生の復習 その2	衣服・住居の衛生、上下水道と廃棄物について国家試験レベルまで復習する
6	環境衛生の復習 その3	衛生害虫とネズミ、衛生管理要領について国家試験レベルまで復習する。
7	公衆衛生・環境衛生 確認テスト	1～6までの内容について知識の確認をすると共に解説することで知識のフィードバック
8	感染症の復習 その1	感染症の歴史・分類について国家試験レベルまで復習する
9	感染症の復習 その2	病原微生物の大きさや構造および生活環境、感染症の予防について国家試験レベルまで復習する。
10	感染症の復習 その3	呼吸器および消化器感染症について国家試験レベルまで復習する。
11	感染症の復習 その4	血液・接触感染および動物からの感染症について国家試験レベルまで復習する。 感染症 確認試験
12	衛生管理技術の復習 その1	消毒についての基礎知識を国家試験レベルまで復習する。
13	衛生管理技術の復習 その2	各種消毒法および材質による消毒法について国家試験レベルまで復習する。
14	期末試験	前期の内容について知識の確認をすると共に解説することで知識のフィードバック
15	期末試験の解説	試験の解説をおこない知識の再確認する

科目名 (英)	香粧品化学 Physics and Chemistry for Beauty	年次	3	実務経験	担当	工藤 竹啓	
		授業形態	講義				
学科・コース	美容師実践科	時間数	30	有	開講区分	前期	
		単位	1		曜日・時間	月・5限	
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。						
目的 科目概要	国家試験科目・美容全般にかかわる香粧品についてを学ぶ。						
到達目標	香粧品の原料や配合、使用目的などを理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品						
教科書	香粧品化学・POINTBOOK	事前事後 学習と その内容					
教材	適宜配布		毎回、授業後に語群の問題の宿題あり。(数問)				
特記事項							

授業計画

回数	授業テーマ	授業内容
1	オリエンテーション 物質の構成・化学式原子の構造・イオン・化学結合	教科書(付録2～4)
2	溶解、コロイド	教科書(付録4～7)
3	酸と塩基、水素イオン指数、強酸、弱酸など	教科書(付録8～14)
4	香粧品概論	教科書(9～30)
5	香粧品原料、皮膚、爪、口唇の性状	教科書(31～40、付録17～20)
6	香粧品の原料	教科書(41～49)
7	中間試験	第1回から第6回までの範囲
8	界面活性剤	教科書(50～59)
9	色材と香料	教科書(63～73)
10	高分子化合物とその他の配合成分	教科書(60～62、74～84)
11	基礎香粧品・皮膚清浄用香粧品・化粧水	教科書(85～992)
12	クリーム・乳液など	教科書(93～104)
13	メイクアップ用香粧品	教科書(105～121)
14	定期試験	第8回から第13回までの範囲
15	定期試験の振り返り	

科目名 (英)	美容実習 Beauty Practice	年次	3	実務経験	担当	加藤亜希
		授業形態	演習			
		時間数	60			
学科・コース	美容師実践科	単位	2	有	開講区分 曜日・時間	前期 火・1,2限
講師紹介	実技国家試験に携わってきた講師が、国家試験の基準をもとに国家試験実習課題・衛生課題の授業を行う。自信をもって本番に臨んでほしいと願っていますので、理論に基づいた手技の指導を徹底します。わかった！やってみたい！やれそうだ！できた！という経験をしてほしい。					
目的 科目概要	国家試験にむけて、衛生審査の項目を理解し、決められた時間の中で正しく実施することができるようになる。国家試験に向けて、実技試験の3課題を、審査項目を理解しながら、決められた時間の中で制作することができるようになる。					
到達目標	国家試験の衛生の項目をただしく実践できる。実技は、正しい姿勢と基礎を徹底しつつ、適正タイムで全頭を完成させる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品					
教科書	美容技術理論	事前事後 学習と その内容	※使用するカットティングの番号を間違えないように管理すること			
教材	適宜					
特記事項	衛生・第一課題/第2課題道具一式・筆記用具					

授業計画

回数	授業テーマ	授業内容
1	衛生7分・国試カット/AW	国家試験の採点項目を知る 衛生7分AW30分を目指す
2	衛生7分・国試カット/AW	衛生7分/カット25分/AW30分を目指す 採点項目を意識し修正する
3	衛生7分・国試カット/AW	衛生7分/カット25分/AW30分を目指す 採点項目を意識し修正する
4	衛生7分・国試カット/AW	衛生7分/カット25分/AW30分を目指す 採点項目を意識し修正する
5	衛生7分・国試カット/AW	衛生7分/カット25分/AW30分を目指す 採点項目を意識し修正する
6	衛生7分・国試カット/AW	衛生7分/カット25分/AW30分を目指す 採点項目を意識し修正する
7	中間試験	国試30分/AW30分 20点
8	衛生7分・国試カット/WD	衛生7分/カット20分/WD20分を目指す 採点項目を意識し修正する
9	衛生7分・国試カット/WD	衛生7分/カット20分/WD20分を目指す 採点項目を意識し修正する
10	衛生7分・国試カット/WD	衛生7分/カット20分/WD20分を目指す 採点項目を意識し修正する
11	衛生7分・国試カット/WD	衛生7分/カット20分/WD20分を目指す 採点項目を意識し修正する
12	衛生7分・国試カット/WD	衛生7分/カット20分/WD20分を目指す 採点項目を意識し修正する
13	衛生7分・国試カット/WD	衛生7分/カット20分/WD20分を目指す 採点項目を意識し修正する
14	衛生7分・国試カット/WD	衛生7分/カット20分/WD20分を目指す 採点項目を意識し修正する
15	定期試験	国試カット20分/WD20分 50点

科目名 (英)	就職講座 V Career Development	年次	3	実務経験	担当	岩本 理絵	
		授業形態	講義				
学科・コース	美容師実践科	時間数	30	有	開講区分	前期	
		単位	1		曜日・時間	火・4限	
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。						
目的 科目概要	目的:グループワークや個人ワークでの自己分析、チームで働くことの大切さを学び社会人基礎力に必要な3つの能力【前に踏み出す力】【考え方】【チームで働く力】を身に付ける。						
到達目標	①自己発見を行い、自己肯定感を高めることで自己PR力を身に付ける。そして希望就職先へ内定できるようになる。 ②積極的に笑顔でいさつができるようになり、接客に必要な身構え・気構え・心構えを身につける。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品						
教科書	教材	手帳・筆記用具(ボールペン・シャーペンどちらも準備)	事前事後 学習と その内容	スケジュールの管理をしっかりと行い、時間管理・体調管理を整えて授業に臨みましょう。グループワークでは自身の発表を進んで出来るように準備をしておきましょう。			
特記事項				メモをする習慣を身につける。			

授業計画

回数	授業テーマ	授業内容
1	自己分析 国家試験筆記対策	2年間を振り返り、自分に足りないものを知る。また自分の強みを確認し、伸ばせるようにしていく。
2	偏愛マップをつくる 国家試験筆記対策	偏愛マップの作成をし、グループワークで仲間の特徴を知る。その後、自己紹介としてクラスの仲間の特徴をクラス全体に発表する。仲間の特徴を知り、発表することでプレゼン力を身に付ける。
3	クラス会議 国家試験筆記対策	テーマ『ハッピー探し』GWで起きた出来事・自分で行動したことなどハッピー探しをして自己肯定感を高める。
4	面接対策 国家試験筆記対策	4人1組。面接官役・受験者役に別れて模擬面接をチームで行う。
5	面接対策 国家試験筆記対策	前回のチームとは別の4人1組。面接官役・受験者役に別れて模擬面接をチームで行う。
6	クラス会議 国家試験筆記対策	テーマ『現代社会について、今とこれからで自分たちにできる事』
7	中間試験 国家試験筆記対策	企業側の目線に立ち、『現代社会どのような人材が求めているか』を考えてまとめる 800文字以内
8	社会人基礎力を身につける 国家試験筆記対策	社会人としてのマナーを身につける。上座・下座について学ぶ。 国家試験筆記問題
9	社会人基礎力を身につける 国家試験筆記対策	社会人としての言葉使いを覚える。敬語・丁寧語を正しく学ぶ。 国家試験筆記問題
10	クラス会議 国家試験筆記対策	前回のクラス会議で決めた議題について話し合う。 国家試験筆記対策
11	自分の強みについて考える 国家試験筆記対策	認知特性を使って自分の得意なことを知る。得意なことをどのように強みに変えていくかを考える。 夏休み課題について 国家試験筆記問題
12	グループワーク 国家試験筆記対策	想定した顧客のニーズを満たせる貢品を話し合い、売るという軸から外れない力を身に付ける。 例)鉛筆を3万円で売るにはどうしますか 国家試験筆記対策
13	クラス会議 国家試験筆記対策	前回のクラス会議で決めた議題について話し合う。 国家試験筆記対策
14	定期試験 国家試験筆記対策	社会に出ていくために必要なことについてまとめる。800文字以内 国家試験筆記対策
15	定期試験振り返り 国家試験筆記対策	14回で考えたことを全体で共有する。5年後、10年後のビジョンについて考える 国家試験筆記対策

科目名 (英)	導入教育Ⅴ Experience	年次	3	実務経験	担当	岩本 理絵	
		授業形態	講義				
学科・コース	美容師実践科	時間数 単位	30 1	有	開講区分	前期	
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。						
目的 科目概要	社会人、企業人である以上、その行動には、『自己責任』の考え方方が欠かせない。その為にも新たな現実に対応する力を学び、身に付ける。						
到達目標	社会人になる為に、十分な予備知識を持ち、それなりの決意、覚悟を持って挑む必要がある、それが社会人、企業人としてのスタートをよりスムーズにする。						
評価方法	学則に定める評価とする。個人課題評価とグループ課題評価を統合し、評価する。評価記述はS(合格)、U(不合格)とする。導入教育の出席時間数が必要時間数に満たない者は、修了の認定を行わない。						
教科書	新社会人基礎力	事前事後 学習と その内容	日頃の生活行動を常に振り返る				
教材	学生便覧・手帳・ポートフォリオ						
特記事項							

授業計画

回数	授業テーマ	授業内容
1	第1章 会社に入るということ 1、会社ってどんな存在なのかを知っておこう	法人にはどんな種類があるか 従業員は会社のために働くのが最大の義務
2	第1章 会社に入るということ 2、会社での働き方にもいろんな形態がある	正社員と非正社員との違いを知っておこう 周りに立場の違う人がいる可能性も
3	第1章 会社に入るということ 3、会社に所属することのメリット	会社員としての権利と義務を理解しておく メリットを生かして成長を目指す
4	第1章 会社に入るということ 4、会社員の給与の仕組みはこうなっている	年棒制や業績給導入企業も増えている 会社の規則や業種によって違ってくる
5	第1章 会社に入るということ 5、給与の額面と手取りの関係はこうなっている	額面は基本給+各種手当なので決める 額面から20%~25%差し引いて考える
6	第1章 会社に入るということ 6、仕事中の事故などを補償してくれる労災保険	あなたを守ってくれる4つの社会保険 通勤途上の事故も労災保険の対象になる
7	1~6の振り返り 中間試験	中間試験・解説・まとめ
8	第1章 会社に入るということ 7、失業したときに心強い味方になる雇用保険	勤務5年以内なら求職者給付は90日 働く人は給与総額の0.3%を負担する
9	第1章 会社に入るということ 8、健康保険があるから医療費負担は3割ですむ	本人だけじゃなく家族も守ってくれる 中小企業では保険料は労使が折半で負担
10	第1章 会社に入るということ 9、老後の生活を安定させる年金保険制度	会社員になれば自営業者の3.5倍の年金 年金便りではなく自助努力も備える
11	第1章 会社に入るということ 10、会社員として知っておきたい労働時間制度	法律では1日8時間、週40時間 所定外労働時間には割増手当が付く
12	第1章 会社に入るということ 11、休日を上手に活用してリフレッシュしよう	大規模企業の90%が近くが週休2日制 年次有休休暇は10日からスタートする
13	第1章 会社に入るということ 12、変形労働時間制など働き方も変わりつつある	仕事の繁閑に合わせて調整する変形労働時間制 自分の責任で働き方を決められる制度も
14	第1章 会社に入るということ 13、会社で許されること許されないこと	まずは就業規則をシッカリとチェックしておく 公私の区別を明確にして仕事に取り組む
15	7~13の振り返り 定期試験	定期試験・解説・まとめ

科目名 (英)	国家試験対策 Beauty culture theory	年次	3	実務経験	担当	駒木伸一郎 南本和幸 加藤亜希 宗像純子	
		授業形態	演習				
学科・コース	美容師実践科	時間数 単位	120 1	有	開講区分 曜日・時間	前期 月・2~4限、火・5限	
講師紹介	美容師国家試験科目(関係法規30、保健30、文化論30、運営管理15、美容技術理論15)である、それぞれの担当科目において、それぞれの現場で実務経験を持つ講師が、美容業界の現場で必要とされる知識、技術を実践的に活用できる授業の提供する。						
目的 科目概要	1人ひとりの学生が現場で必要とする専門知識・技術を理解し、在学中の学習目標を定め、目標達成に向かって切磋琢磨することができるよう意識を高めること。 学習した専門知識や技術を活用して、美容業界の現場で、その成果が発揮できること。美容師免許を取得するための目的とする。						
到達目標	現場でどんな場面で必要とされるかを想定し実践できるようになる。 2月、3月に実施される、美容師国家試験実技・筆記試験に合格する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点~90点A(4.0)、89点~80点B(3.0)、79点~70点C(2.0)、69点~60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品						
教科書	教科書	事前事後 学習と その内容					
教材	適材配布						
特記事項			事後学習に原点を置くことが望ましい、小テストなどを行うので、間違えたところは必ず、復習をする。				

授業計画

回数	授業テーマ	授業内容
1	美容師国家試験科目 (関係法規、保健、文化論、運営管理、美容技術理論、美容実習)	教科書・教材を用いて、講義・演習・グループワークを用いた授業を実施。
2	美容師国家試験科目 (関係法規、保健、文化論、運営管理、美容技術理論、美容実習)	教科書・教材を用いて、講義・演習・グループワークを用いた授業を実施。
3	美容師国家試験科目 (関係法規、保健、文化論、運営管理、美容技術理論、美容実習)	教科書・教材を用いて、講義・演習・グループワークを用いた授業を実施。
4	美容師国家試験科目 (関係法規、保健、文化論、運営管理、美容技術理論、美容実習)	教科書・教材を用いて、講義・演習・グループワークを用いた授業を実施。
5	美容師国家試験科目 (関係法規、保健、文化論、運営管理、美容技術理論、美容実習)	教科書・教材を用いて、講義・演習・グループワークを用いた授業を実施。
6	美容師国家試験科目 (関係法規、保健、文化論、運営管理、美容技術理論、美容実習)	教科書・教材を用いて、講義・演習・グループワークを用いた授業を実施。
7	中間試験	第1回から第6回までの範囲
8	美容師国家試験科目 (関係法規、保健、文化論、運営管理、美容技術理論、美容実習)	美容師国家試験科目を意識し、過去問題を中心に対策授業を実施。
9	美容師国家試験科目 (関係法規、保健、文化論、運営管理、美容技術理論、美容実習)	美容師国家試験科目を意識し、過去問題を中心に対策授業を実施。
10	美容師国家試験科目 (関係法規、保健、文化論、運営管理、美容技術理論、美容実習)	美容師国家試験科目を意識し、過去問題を中心に対策授業を実施。
11	美容師国家試験科目 (関係法規、保健、文化論、運営管理、美容技術理論、美容実習)	美容師国家試験科目を意識し、過去問題を中心に対策授業を実施。
12	美容師国家試験科目 (関係法規、保健、文化論、運営管理、美容技術理論、美容実習)	美容師国家試験科目を意識し、過去問題を中心に対策授業を実施。
13	美容師国家試験科目 (関係法規、保健、文化論、運営管理、美容技術理論、美容実習)	美容師国家試験科目を意識し、過去問題を中心に対策授業を実施。
14	定期試験	第8回から第13回までの範囲
15	定期試験の振り返り	定期試験から振り返り、自己の弱点を見直し改善する。

科目名 (英)	関係法規・制度 The related law and regulations/systems	年次	3	実務経験	担当	日野 忠大	
		授業形態	講義				
学科・コース	美容師実践科	時間数	30	有	開講区分	後期	
		単位	1		曜日・時間	月・4限	
講師紹介	行政書士として法律実務に携わっております。自身が法律を学んだ経験から法律を学ぶコツ、国家試験での重要ポイントをみなさんにお伝えするとともに、法律がどのように実社会で関わりを持つのか、実際の事例をご紹介しながら、法律を身近に感じてもらう授業をしたいと考えています。						
目的 科目概要	目的:国家試験科目であることから、国家試験に十分合格できる基礎知識を習得する。特に美容師法は将来美容師となった際に直接関係するため、その具体的なイメージを常に膨らませ基礎知識を学んでいく。 科目概要:法律が実生活とどう関わってくるのか、その場面をイメージすることを重視し、具体的な事例を多く取り入れ、学ぶ。国家試験に合格できる十分な点数を取るために、正確な知識を習得する。暗記に頼らず、「なぜ」「どうして」という自ら考える力をつけることに重点を置く。						
到達目標	美容師国家試験で合格レベルの解答ができるようになる。 「問題を解く」という視点から、正確にアウトプットできる。 あいまいな点、わからない点がなく正確に理解できている。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品						
教科書	教科書(関係法規・制度 公益社団法人日本理容美容教育センター)	事前事後 学習と その内容					
教材	毎回配布するプリント		事後学習に重点を置くことが望ましい。小テストなど行うので、間違えたところについては必ず復習をすること。				
特記事項	毎回プリントを配布するため、前期で使用した「関係法規」のファイルにファイリングすること。						

授業計画

回数	授業テーマ	授業内容
1	総合問題1・総合問題2	過去問をまとめた問題を制限時間内に解答し、その後解説を受ける。「問題を解く」という視点から、どのように正答を導き出すか、その構えと解法テクニックを学ぶ。
2	総合問題3・関連法規(生衛法)	過去問を制限時間内に解答し、その後解説を受ける。 関連法規として教科書に上がっている、「生衛法」「労働基準法」他、美容師業に関係する法律についての知識を習得する。
3	総合問題4・関連法規(生衛法)	過去問を制限時間内に解答し、その後解説を受ける。 関連法規として教科書に上がっている、「生衛法」「労働基準法」他、美容師業に関係する法律についての知識を習得する。
4	総合問題5・関連法規(労働法)	過去問を制限時間内に解答し、その後解説を受ける。 関連法規として教科書に上がっている、「生衛法」「労働基準法」他、美容師業に関係する法律についての知識を習得する。
5	総合問題6・関連法規(労働法・日本政策金融公庫法)	過去問を制限時間内に解答し、その後解説を受ける。 関連法規として教科書に上がっている、「生衛法」「労働基準法」他、美容師業に関係する法律についての知識を習得する。
6	総合問題7・関連法規(顧客に関する法律・保健所)	過去問を制限時間内に解答し、その後解説を受ける。 関連法規として教科書に上がっている、「生衛法」「労働基準法」他、美容師業に関係する法律についての知識を習得する。
7	定期試験	試験を通じて自分の今の実力を知る。
8	総合問題8・行政処分と罰則のまとめ	過去問を制限時間内に解答し、その後解説を受ける。 苦手とすることが多い行政処分・罰則について復習を行う。国家試験も間近に迫っているので、これを機に完全に知識を身につけ、穴をなくす。
9	総合問題9・総合問題10	過去問をまとめた問題を制限時間内に解答し、その後解説を受ける。苦手な分野についての復習講義を聞き、穴をなくす。
10	総合問題11・総合問題12	過去問をまとめた問題を制限時間内に解答し、その後解説を受ける。苦手な分野についての復習講義を聞き、穴をなくす。
11	総合問題13/衛生行政・行政機関・条例・法制度一般	過去問を制限時間内に解答し、その後解説を受ける。 復習として、衛生行政、行政機関等、理解しにくく、混乱しやすい項目について一度整理し、理解を深める。
12	総合問題14/横断的知識の確認	過去問を制限時間内に解答し、その後解説を受ける。 復習として、「誰が」(例えば「厚生労働大臣」「都道府県知事等」が)、「何をするか」という視点から横断的な知識の確認をする。
13	総合問題15/横断的知識の確認	過去問を制限時間内に解答し、その後解説を受ける。 復習として、「誰が」(例えば「厚生労働大臣」「都道府県知事等」が)、「何をするか」という視点から横断的な知識の確認をする。
14	定期試験	試験を通じて自分の今の実力を知る。講師による国試出題が予想される問題を数多く取り入れるので、本番同様の緊張感で臨む。
15	総復習	前回の定期試験の解説を受ける。 最後に見直すべき、出題可能性の高い分野について解説を行う。高得点が取れるように気を引き締めて受講する。

科目名 (英)	香粧品化学 Physics and Chemistry for Beauty	年次	3	実務経験	担当	南本 和幸	
		授業形態	講義				
学科・コース	美容師実践科	時間数	30	有	開講区分	後期	
		単位	1		曜日・時間	月・3限	
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。						
目的 科目概要	国家試験科目・美容全般にかかわる香粧品についてを学ぶ。						
到達目標	香粧品の原料や配合、使用目的などを理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品						
教科書	香粧品化学・POINTBOOK	事前事後 学習と その内容	毎回、授業後に語群の問題の宿題あり。(数問)				
教材	適宜配布						
特記事項							

授業計画

回数	授業テーマ	授業内容
1	導入・物質の構成、化学式	香粧品化学をなぜ学ぶのかを概観する。様々な香粧品を理解するための基礎化学をはじめに開設する。身近な物質はどのように構成されているのか。すべての物質は化学式で表現できることを知る。ただし沢山の化学式を記憶する必要はないので安心していただきたい。
2	原子の構造、イオンの生成原理、化学結合	原子の構造はどのようなものか。またそこからイオンはどのように生成するのか解説する。さらにわれわれの周囲に存在する物質は3種類に分んるいできること、これは3種類の化学結合で理解できることを説明する。
3	溶解、溶解度曲線、コロイドの種類	香粧品は水に原料を溶解させる、あるいはコロイドにすることによって製造する。これらに関して溶解の原理、コロイド生成の原理を説明する。
4	酸と塩基、水素イオン指数、強酸・弱酸など	香粧品には酸性・アルカリ性が重要な役割を持つことがある。この意味を正しく理解できるように解説する。また、酸性・アルカリ性の強弱があること、それを表すために水素イオン指数(pH)について解説する。
5	酸化と還元、パーマの原理	酸化と還元、酸化剤と還元剤について解説する。この原理を用いたパーマの原理を説明する。美容業務における中心的な内容なのでしっかり理解できるように頑張っていただきたい。
6	有機化合物	有機化合物とは何か解説する。有機化合物の種類は膨大なものであるところから特に美容業務に用いるものに関して説明するので代表的な物品はしっかりと記憶していただきたい。
7	中間試験	筆記テストを実施する。復習と質問の時間を設けたのちに始める。
8	香粧品概論、化粧品の定義、医薬部外品	香粧品の社旗的意義とは何か。安全を確保するための法的規制。香粧品の安定性と取り扱い上の注意などについて解説する。
9	香粧品原料(水性・油性原料)、皮膚・毛髪・まぶた	香粧品に用いられる原料について水性原料、油性原料(油脂、ロウ、炭化水素)について解説する。身近なものも多いので皆さんがすでに知っている物質に関して先ず理解を深め関心を広げていただきたい。
10	界面活性剤の種類と働き	香粧品を製造するためには必須の物品と言える界面活性剤とは何か、その構造に基づく種類別の役割について解説する。ここでコロイドの理解も深めることができるので関連させながら理解を深めていただきたい。
11	色材の種類とそれらの性質	ポイントメイクアップ香粧品では必須の原料であるしK罪について解説する。国家試験対策としては十分なレベルなら11種類、最低限のレベルで5つは暗記する必要がある。これらについて理解を深めていただきたい。
12	その他の配合成分	酸化防止剤、防腐殺菌剤、紫外線吸収剤など香粧品の機能や安全性を確保するための重要な原料物品について解説する。この分野は国家試験では最も出題される範囲であるところからしっかりと取り組んでいただきたい。
13	高分子材料、香料、特殊成分	香粧品に様々な機能を与える高分子材料や特殊成分について解説する。
14	定期試験	筆記テストを実施する。復習と質問の時間を設けたのちに始める。
15	定期試験の振り返り、総合演習	期末テストの解説をする。理解不足の項目を見定めて早めに理解を深めるようにしていただきたい。十分な質疑の時間を取りたいと思う。加えて総合演習を行い理解を深めていただきたい。

科目名 (英)	運営管理 Operational management	年次	3	実務経験	担当	加藤亜希	
		授業形態	講義				
学科・コース	美容師実践科	時間数	60	有	開講区分	後期	
		単位	2		曜日・時間	月・2限	
講師紹介	現役美容師の教員が、運営管理の学習内容をつうじて、ひとりひとり、将来像やキャリアプランを想像できるような内容で授業を展開する。経営者の視点をもちつつ、自分がどう選択していくか、今後の人生を豊かにできるようになってほしい。						
目的 科目概要	・経営者の考え方や経営者が果たす責任・役割を学ぶ・人を雇うことの責任や働くうえで求められることを学ぶ・顧客を満足させるサービスとは何か。それをどう実現するかについて学ぶ						
到達目標	経営管理、税金、社会保険、会計、接客など、身近ではない内容のように見えるし、身近ではない言葉がたくさん出でます。前期では、噛み砕いた例を多様しますので言葉の意味をよく想像し、また、メモをとったり、みずから調べることでひきだしを増やすことに、慣れていく。また、国家試験科目なので、振り返りができるようなファイル作りをする。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品						
教科書	運営管理(日本理容美容教育センター)	事前事後 学習と その内容					
教材	配布プリント		授業内容のおさらいテストを次週行うため、内容の確認ができるようなノート作り、プリント整理をしておくこと。				
特記事項	運営管理用のファイルを必ず用意すること。						

授業計画

回数	授業テーマ	授業内容
1	授業の説明・経営とは	「経営者になりたいか、なぜなりたいか、なぜなりたくないか、経営者とはどんな人をいか」を考える
2	経営資源と経営戦略	経営資源とは何か、美容業の経営戦略を学ぶ
3	理容業・美容業の現状と競争	美容業界の現状と自分周りを比べて考えてみる
4	資金管理と会計	資金の管理について学ぶ 会計 貸借対照表と損益計算書 財務諸表とは何か学ぶ
5	税金について	税金の種類と支払うタイミング・支払わなかった場合の罰則について学ぶ・マイナンバー制度
6	人という資源・労務管理	経営資源の「ひと」について学ぶ・やる気を出すためには
7	中間試験	中間試験 1～6回の内容から 20点
8	人をやる気にさせるために	給与・待遇・労働者の権利
9	健康管理の基礎	健康診断・労働安全衛生法・美容師の仕事と健康について
10	社会人としての責任・社会保険①	国民年金について(制度・被保険者・給付・保険料)
11	社会保険①	厚生年金について(制度・被保険者・給付・保険料)
12	社会保険②	健康保険について(制度・被保険者・給付・保険料)
13	社会保険②	国民健康保険・介護保険・後期高齢者医療保険について(制度・被保険者・給付・保険料)
14	定期試験	定期試験 8～13回の内容から 50点
15	定期試験・振り返り	定期試験の振り返り、前授業のファイルの提出

科目名 (英)	就職講座 Career Development	年次	3	実務経験	担当	小泉哲郎	
		授業形態	講義				
学科・コース	美容師実践科	時間数	30	有	開講区分	後期	
		単位	1		曜日・時間	金・1限	
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。						
目的 科目概要	目的:グループワークや個人ワークでの自己分析、チームで働くことの大切さを学び社会人基礎力に必要な3つの能力【前に踏み出す力】【考え方】【チームで働く力】を身に付ける。						
到達目標	①自己発見を行い、希望就職先へ内定できるようになる。 ②笑顔であいさつができるようになり、接客に必要な身構え・気構え・心構えを身につける。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品						
教科書							
教材	手帳・筆記用具(ボールペン・シャーペンどちらも準備)	事前事後 学習と その内容					
特記事項	メモをする習慣を身につける。		スケジュールの管理をしっかりと行い、時間管理・体調管理を整えて授業に臨みましょう。グループワークでは自身の発表を進んで出来るように準備をしておきましょう。				

授業計画

回数	授業テーマ	授業内容
1	自己紹介	自己紹介をすることでコミュニケーションを図りより良いクラス作りをする。
2	就職活動の心得	就職活動を行う上での心構えを理解する
3	業界について知る	美容業界の職種について自分のやりたいことを見つける
4	募集要項について知る	求人票の見方福利厚生の意味を知る
5	自己分析	自分に合ったサロンを選ぶことができるよう自分自身を見つめ直す
6	就職活動スケジュールを組み立てる	面接対策を通しての気付きをまとめ、それを活かすためにどの様にしていくかを考える。
7	中間試験	企業側の目線に立ち、『どのような人材が求めているか』を考えてまとめる 800文字以内
8	社会人基礎力を身につける	社会人としてのマナーを身につける。上座・下座について学ぶ。
9	社会人基礎力を身につける	社会人としての言葉使いを覚える。敬語・丁寧語を正しく学ぶ。
10	社会人基礎力を身につける	伝える力を学ぶ。絵を見て覚え、他の仲間に言葉だけで覚えた絵を伝えることができるか。
11	自分の強みについて考える	認知特性を使って自分の得意なことを知る。得意なことをどのように強みに変えていくかを考える。
12	グループワーク	想定した顧客のニーズを満たせる賞品を話し合い、売るという軸から外れない力を身に付ける。 例) 鉛筆を3万円で売るにはどうしますか
13	ストレスについて考える	ストレスを軽減するためにはどのような行動が必要かを考え、個人で考え、チームで共有する。
14	定期試験	社会に出ていくために必要なことについてまとめる。800文字以内
15	定期試験振り返り	14回で考えたことを全体で共有する。5年後、10年後のビジョンについて考える

科目名 (英)	国家試験対策 National examanation	年次	3	実務経験	担当	鈴木由美子 加藤亜希 駒木伸一郎 日野忠大 薩割実美 水谷将也 南本和幸 成川直子 工藤竹啓	
		授業形態	演習				
学科・コース		時間数	360	有	開講区分	後期	
美容師実践科	単位	12	曜日・時間		火・1~4限、木・1~4限、金・3、4限		
講師紹介	美容師国家試験科目(保健30、文化論30、衛生管理30、運営管理30、美容技術理論60、美容実習180)でもある、それぞれの担当科目において、それぞれの現場で実務経験を持つ講師が、美容業界の現場で必要とされる知識、技術を実践的に活用できる授業を行う。						
目的 科目概要	1人ひとりの学生が現場で必要とする専門知識・技術を理解し、在学中の学習目標を定め、目標達成に向かって切磋琢磨することができるよう意識を高めること。 学習した専門知識や技術を活用して、美容業界の現場で、その成果が發揮できること。美容師免許を取得するための目的とする。						
到達目標	2月、3月に実施される、美容師国家試験実技・筆記試験に合格する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品						
教科書				事前事後 学習と その内容			
教材							
特記事項							

授業計画

回数	授業テーマ	授業内容
1	10月国家試験対策	実技課題の審査項目、衛生項目を把握する
2	10月国家試験対策	実技課題の審査項目、衛生項目を把握する
3	10月国家試験対策	模擬試験 現時点の実技・筆記の立ち位置の確認と弱点項目を知る
4	11月国家試験対策	実技: 第2課題決定後、実技審査項目、衛生上の取り扱い審査項目を把握し身に付ける特訓 座学: 全科目的教科書説明、問題を解き、訂正箇所の振り返りの実施
5	11月国家試験対策	実技: 第2課題決定後、実技審査項目、衛生上の取り扱い審査項目を把握し身に付ける特訓 座学: 全科目的教科書説明、問題を解き、訂正箇所の振り返りの実施
6	11月国家試験対策	実技: 第2課題決定後、実技審査項目、衛生上の取り扱い審査項目を把握し身に付ける特訓 座学: 全科目的教科書説明、問題を解き、訂正箇所の振り返りの実施
7	12月国家試験対策	模擬試験 現時点の実技・筆記の立ち位置の確認と弱点項目を知る 合格レベルの差の確認をしながら、課題克服を目指す
8	12月国家試験対策	模擬試験 現時点の実技・筆記の立ち位置の確認と弱点項目を知る 合格レベルの差の確認をしながら、課題克服を目指す
9	12月国家試験対策	模擬試験 現時点の実技・筆記の立ち位置の確認と弱点項目を知る 合格レベルの差の確認をしながら、課題克服を目指す
10	1月国家試験対策 集中	本番同様の流れを意識し、繰り返しトレーニングを行う
11	1月国家試験対策 集中	本番同様の流れを意識し、繰り返しトレーニングを行う
12	1月国家試験対策 集中	本番同様の流れを意識し、繰り返しトレーニングを行う
13	2月国家試験対策 集中	問題・解説・誤文訂正トレーニング
14	2月国家試験対策 集中	問題・解説・誤文訂正トレーニング
15	2月国家試験対策 集中	問題・解説・誤文訂正トレーニング